

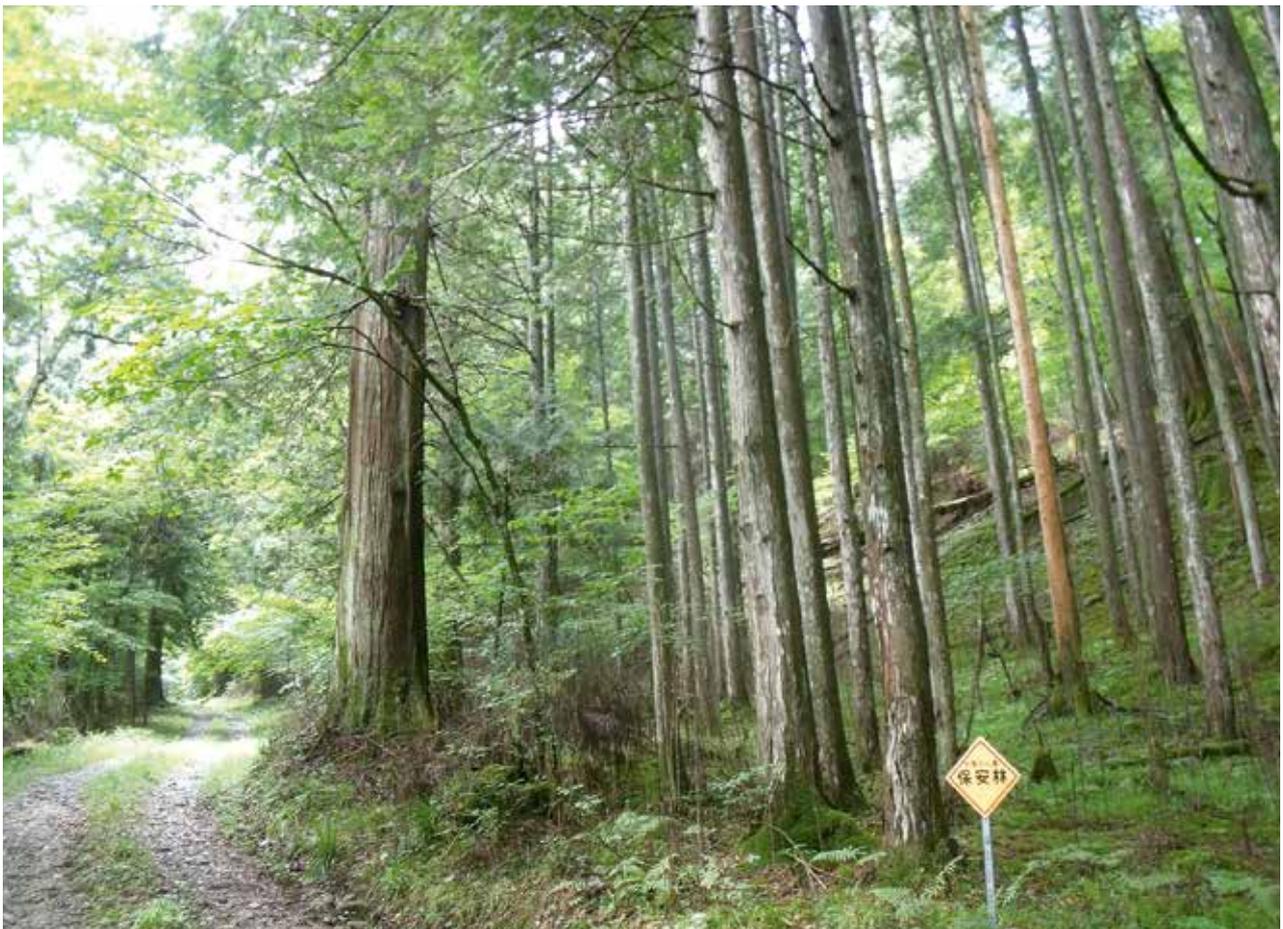
# 広報 妻籠宿



公益財団法人妻籠を愛する会

令和3年8月20日発行

No.139



(男埴国有林)

小学生の頃、山へ植樹する行事がありました。どこに植えたのかは、さっぱり覚えていませんが、順調に育っていれば直径15~20cm位になっているでしょうか。

男埴の国有林には、樹齢350年にもなる木曾五木があります。350年前に植えた人がいたのか、種から芽生えたのか、どちらにせよ樹木たちの静かでゆっくりした成長と自然の巡りの尊さを感じます。

小笠原 美雪

## 特集 分収育林 その3

理事長 藤原 義則

〈大径木の森〉

### 【現地視察】

5月11日、男埴山分収育林での現地検討会が中部森林管理局南木曾支署主催で開催された。町、議会、地振、愛会等総員41名が現地の視察と現場での意見検討会が行われました。愛会からは6名の参加であり、長野県立歴史館の笹本正治特別館長(元信大副学長)にも参加してもらい学識経験者としての意見も述べていただいた。

当日現地では信州大学名誉教授の北原曜先生の説明、解説があり二人の先生は急峻の山であり風化花崗岩のマサ土で木が深く根を張れない、伐採後5年~10年で根が腐るので降雨次第で土石流が発生する可能性があるという説明された。又北原先生は急斜面以外の場所でも間伐して広葉樹を植えて災害に強い森林づくりをしてほしいと述べられた。

### 【6月29日 林野庁 長官訪問】

後藤茂之代議士への陳情を目的に連絡したところ、代議士が林野庁長官への面会の段取りをつけていただき、代議士の案内で林野庁長官を訪問できました。男埴山(おたるやま)の分収育林についての陳情を行いました。同席いただいたのは国有林野管理室大沼室長さんと分収育林班川崎課長補佐さんでした。

男埴山や木曾川左岸の南木曾岳(なまびそがたけ=泣く=雨降り)一帯は風化花崗岩の「マサ土」であり樹木の根が地中深く張れない地帯であることや、南木曾岳周囲は我が国でも有数の豪雨地帯であること。

現地検討会で急峻な地形であり木を伐採すれば災害の恐れがあることを学識経験者の先生方に指摘されたことなど説明してきました。当河川は何度も蛇抜けが発生し人命財産が失われた地域であることを赤色立体図などで説明しました。

### 【議会への請願書の動向】

6月議会終了後(17日付)継続審議との連絡あり、その後、7月臨時議会で趣旨採択の通知がありました。(16日付)



← マサ土



↑ 中山道ハイキングコース

## 蛇抜きの記録

### 理事長 藤原 義 則

南木曾町の蛇抜きは一覧表をご覧ください。

特徴は6月末から7月初めに発生している。梅雨の中ごろから終わりに発生している。これは、梅雨前線が押し上げられて太平洋から湿舌が入り、南木曾岳にぶつかり麓に大雨を降らせる。この地域に暮らす人は、蛇抜が発生することを想定して避難する行動が重要です。

近年地球温暖化のためか50年に一度の大雨が頻繁に発生しています。災害は忘れた頃でなく頻繁です。

#### 【蛇抜け目撃】

昭和40年7月1日午後3時頃のことだった。高校3年生の1学期末試験で、北校舎の2階で最後の倫理社会のテスト中、異常な地響きがあった。国道19号を戦車100台が全速力で移動中のような轟音だった(キャタピラの騒音に似ている)。テスト用紙を放りだし全員45人が窓枠にしがみ付いた。蛇抜きの先頭は役場の左上を木が立ったまますり落ちるようにゆっくりと移動し、その後ろを巨岩がその後ろに土砂と水が木曾川まで流れ下った。誰も声を上げられなかった。

普通科・商業科の者はテストが終わり部活中だった。線路も破壊されたので汽車通学の者はその夜は礼法室に泊まった。

平成26年の梨子沢蛇抜きの国交省の定点カメラの映像でも最初に立木、巨石、土砂の順で流れ下っている。これが南木曾の蛇抜きの特徴です。

南木曾の蛇抜については町誌に気象、地質、蛇抜くと詳しく記載されているので、見て故郷の宿命を理解してください。「尾の先・谷口・宮の前」のいわれもあります。

#### 【他人事でない】

7月3日熱海市での土石流発生は、盛り土の崩落だ。盛り土が10年以上たってから抜けて、今回の災害になった。流出土砂5.6万m<sup>3</sup>で大災害となった。

リニア新幹線のトンネル廃土の土捨場も十分な調査、対策を講じなければならない。人工構築物は有限寿命であること=メンテナンスをする必要がある。

予知が難しい自然事象、地震(断層のずれ) 台風(伊勢湾台風)南木曾は蛇抜きの常襲地帯。心して暮らすことが肝心です。

### 【南木曾町の 蛇抜きの歴史】

元禄 4年 (1691)	大山 (過伐、つき山、裸山、蛇抜け)
享保 3年、7年 (1718、1722)	大崖
天保元年 (1830)	三留野一恵那 中山道不通
15年 (1844)	5月 下山沢 与川村 (杣・日用114名死亡)
安政 4年 (1857)	7月 赤坂、恋野(与の洞)
	8月 妻籠村
慶応元年 (1865)	5月 妻籠村(妻籠~馬籠、男埴川を中心)
明治37年 (1904)	5月 22名死亡
	桂の蛇抜け(黒鋏集団)
	7月 47名死亡 吾妻村の大災害 (広瀬・蘭・妻籠)
大正10年 (1921)	7月 広瀬
12年 (1923)	7月 三留野村(三留野~十二兼)
昭和 3年 (1928)	7月 広瀬地区
9年 (1934)	6月 三留野地区(梨子沢、蛇抜け沢他)
19年 (1944)	7月 2名死亡、広瀬・与川地区(下山沢他)
22年 (1947)	7月 2名死亡、下北沢・長者畑本谷
23年 (1948)	8月 3名死亡、読書村
27年 (1952)	7月 蘭川(大山・横根羽)
28年 (1953)	7月 3名死亡、伊勢小屋沢・読書村 (八人石、羅天、下山沢、細野山、田立、新田川(天狗山))
33年 (1958)	7月 男埴川、薬師が洞
40年 (1965)	7月 大沢田川、蘭川、男埴川、与川、 大前沢、神戸沢、…
41年 (1966)	6月 大沢田川、神戸沢、蛇抜け沢、 戦沢、北沢、大水上沢、大洞沢、 長谷川、額付川、押手沢、蘭川
44年 (1969)	8月 8名死亡 与川、梨子沢、蘭川
47年 (1972)	8月 坪川(前沢、井戸沢)
49年 (1974)	7月 柿其地区(わらび沢他)
50年 (1975)	7月 1名死亡
	妻籠地区(ポンプ車、男埴川)三留野地区
54年 (1979)	7月 1名死亡 広瀬、蘭地区
平成11年 (1999)	6月 田立中心
	長谷川、坪川、塚野、大野正兼、奥夏虫
26年 (2014)	7月 1名死亡
	三留野地区(梨子沢他)

## 一石栃のシジュウカラ

一石栃立場茶屋管理人 渡辺千俊

子どもの頃、巣箱コンクールで大層優秀な賞をいただいていたが、大変恥ずかしい思いをした。実を言えば、ほとんど父親の作品だったからだ。

あれから半世紀。私は茶屋の囲炉裏で餅を焼きながら、杉板の廃材で巣箱が出来ないか思案していた。何とか不恰好な巣箱をこしらえ、桜の木にくくりつけたのは3月の末だった。相変わらず旅人は少なかったが、4月下旬には枝垂れ桜が満開を迎えた。

5月のある日、つがいのシジュウカラが、直径3センチの巣穴に飛び込むのを見た。巣作り開始だ。

6月の初め。大雨で巣箱の背板が取れかけたので、修理のために木に登り、中をのぞいてみた。小さな卵が7つもあった。しばらくして無事に孵化したらしく親鳥が盛んにエサを運び入れ始めた。その後、ひなは順調に育ち、人知れず森へ巣立って行ったのは6月15日だった。

旅人の心を癒す立場茶屋、水船の音、囲炉裏の炎と煙の香り、見事な枝垂れ桜。それに、巣箱と鳥たちの営みを加えても良いかも知れない。

そんなことを考えていた7月初め。空き家になっていた巣箱に再びシジュウカラが通い始めた!

「おやじよ、こいつで賞はとれんけど、鳥には大層人気のおやじよ。」



〔一石栃立場茶屋では定期的に周辺の草刈り  
薪づくり・道普請などを行っています。〕

## 若女将の会による七夕飾り

妻籠観光協会 嵯峨 理恵子

毎年宿場内でそれぞれ飾られていた七夕。昨年は新型コロナウイルスの影響で中止に。今年は少しでもお客さんが来てくれて思い出に残るような、SNS等で発信してもらえそうなイベントをしようと、妻籠観光協会女性部の若女将に集まってもらい、10名ほどで七夕飾りの構想・企画を初めて行いました。

竹の切り出しや加工、組み立てなどの力仕事は男性に協力してもらい、竹灯籠のために電気ドリルで穴あけしたり（初めて使う人もいました）、折り紙や画用紙で飾りをつくったり（毎日宿題が出されました）、1か月以上かけて大変ながら楽しい作業をすることができました。

7月26日～8月8日まで沢山の短冊に願い事を書いてもらい、沢山のの人に情報発信してもらい、沢山のの人に妻籠へ来ていただきたい。若女将の会メンバーの願いです。



## スキルアップセミナー 開催

(一社)南木曾町観光協会  
専務理事 樋口 信雄

南木曾町のもっと元気に戦略室・産業観光課・教育委員会・妻籠を愛する会・南木曾町観光協会が力を合わせて、「妻籠宿と中山道ハイキングの魅力向上実証事業委員会」を立ち上げ、中山道や妻籠宿のお宝を発見し観光案内をさらに磨き上げ、南木曾に伝わる木の文化等を再確認しながら、域内連携促進に向けた実証事業を実施することになりました。

事業の一端として、観光協会が担当して関係者のスキルアップ事業セミナーを開催します。インバウンドに魅力的なハイキングコースである、馬籠峠から与川根の上峠まで中山道を検証しながら、地場産業である伝統工芸のロクロ製品やひのき笠づくりの体験もまじえ、南木曾の木の文化に触れるツアーも計画しています。観光案内のベテランやこれから勉強したい初心者も含めた「スキルアップセミナー」は、VISIT JAPAN 大使 佐藤博康先生、国学院大学准教授 石山千代先生を講師に迎え、モニターツアーやセミナーを開催します。中山道・妻籠宿旅行者案内冊子の作成や木曾地域についてのアンケート調査も実施します。

地域の関係者が連携を深め実証事業をつうじて、体験型観光コンテンツの造成やコロナの渦が過ぎ去った後で、これから中山道を旅するハイカーの魅力を高められたら幸いです。



## オオハンゴンソウ除去作業と 周辺環境整備 環境保全委員会主催

妻籠愛友会 磯村 琢 弥

6月27日、愛友会はオオハンゴンソウ除去作業と周辺環境整備に参加しました。今回の作業は、オオハンゴンソウの花が咲く前に草刈り機で刈り込む班と、長坂、八起辺りの支障木を伐採する班に分かれて行うこととなりました。私と藤原君、平川君の三名は、八起から第三駐車場間の支障木の伐採を担当しました。

地上から4~5メートル上にある枝を切るわけですが、どうもノコギリの先と後ろが出っ張ったコの字型のものでないと刃が枝から外れやすらしく、無駄に体力を消耗することになりました。また、枝の上側から切り出してもノコギリの刃が挟まれ、挟んでいる枝をどかさうにもノコギリから手を離すと刃が折れてしまう状況に陥り、助けを呼んでノコギリを持ってもらい、自分は崖に登り木を押ししてどかさなどという困難な場面もありました。そうこうするうちにあつという間に時間がきてしまいましたが、自分たちが怪我をすることも、ガードレールや案内板を壊すこともなく無事に終わりました。

家に帰ってから少しオオハンゴンソウについて検索してみると、オオハンゴンソウは北海道から九州まで広く確認されているということでした。駆除の様々な方法が紹介されていましたが、その中でもこれは試す価値がありそうだなと思ったものを紹介します。まず草刈り機で刈込み、その後、遮光シートを1年間被せておくというものです。その部分は根絶できるそうなので、次回は一箇所だけでも試験的にこの方法を導入してみてもいいかな、と思います。



## 宿 場 暦

- 5月 7日：NBCニュース東京撮影（～9日）  
 8日：三役会  
 11日：森林管理署分収育林現地検討会  
 （6名参加）、理事会  
 15日：一石栃作業（6名）  
 19日：一石栃立場茶屋小梅漬け作業（～20日）  
 20日：統制委員会、広報138号発行  
 24日：公民館妻籠分館建設委員会（理事長・常務）  
 27日：評議員会  
 31日：長野放送撮影
- 6月 2日：信越放送撮影  
 5日：妻籠地区地域振興協議会総会（理事長）  
 6日：（全国町並み保存連盟総会：書面）  
 7日：（第41回南木曾町  
 妻籠健康マラソン大会：中止）  
 8日：南木曾町リニア中央新幹線対策協議会  
 （理事長・常務）  
 9日：（木曾風景街道推進協議会総会：書面）  
 11日：三役会  
 14日：理事会  
 16日：観光資源磨き上げ連絡会（理事長）  
 19日：令和3年度第1回観光地点パラメータ調査、  
 （日本ナショナルトラスト協会総会：書面）  
 21日：統制委員会  
 24日：木曾地域文化遺産活性化協議会活性化委  
 員会、日本遺産冊子検討部会  
 （木曾町・理事長）  
 27日：オオハンゴンソウ除去作業  
 （環境保全委員会・23名参加）  
 28日：広報部会
- 7月 1日：観光資源磨き上げ連絡会（理事長）  
 5日：撮影許可審議委員会  
 11日：南木曾町リニア中央新幹線対策協議会町  
 内現地視察（理事長・常務）  
 15日：木曾地域文化遺産活性化協議会総会  
 （木曾町・理事長）  
 18日：一石栃草刈り作業（6名）  
 20日：統制委員会  
 21日：衣装部会  
 23日：和智埜神社祭礼（神事のみ）  
 24日： // （神輿ふれあい館）、  
 NBCニュース東京撮影  
 26日：名工土木城山整備作業、妻籠地区域  
 振興協議会役員会（理事長）  
 28日：インバウンド推進協議会理事会・総会  
 （長野市・理事長）  
 30日：広報部会

31日：第1回スキルアップセミナー  
 （南木曾町観光協会）

今年も(株)名工土木の皆様による城山の環境整備  
 が7月26日酷暑の中行われました。ありがとうござ  
 いました。



## 統制委員会審議事項

5月20日

- ・繊維補強モルタル吹付工事（建設事務所：橋場） 1件
- ・土蔵外壁修繕工事（小規模修理：上町） 1件
- ・支障木枝払い（関電：尾又） 1件
- ・妻籠発電所門扉塗裝修繕工事（関電：尾又） 1件

6月21日

- ・電柱建替え工事（株TOSYS：第2P付近） 1件
- ・進入路拡幅工事（恋野：個人） 1件
- ・外壁塗装（小規模修理：寺下） 1件
- ・電柱・支柱撤去及び新設（中電：大高取） 1件
- ・災害復旧工事：5/21大雨（教委：下り谷） 1件

7月20日

- ・配電線設備の保安伐採（中電：上在郷・橋場） 1件
- ・立木伐採及び枝払い（建設業協会：大高取） 1件
- ・外壁修繕（下町：個人） 1件
- ・塀修理（喜楽庵） 1件

### 【統制委員会からのお知らせ】

重伝建地区内で家屋の修繕等行うときには、事  
 前に統制委員会への届出が必要となります。申請  
 用紙は愛する会にあります。

また、補助金が出る場合もありますので、町教  
 育委員会又は愛する会事務局にご相談ください。

発行：公益財団法人妻籠を愛する会  
 〒399-5302 長野県木曾郡南木曾町吾妻2159-2  
 TEL:0264-57-3513 (FAX兼用)

## 夏祭りが終わって

総代表 今井好紀

今年も和智埜神社氏子の皆様と夏祭り実行委員会の若者たちの絶大なる力添えを頂き、夏の例大祭が滞りなく開催されましたこと、心から御礼申し上げます。

昨年の夏祭りはコロナ禍の中神事のみのお祭りでしたが、今年は何とか神様にお山から里へお越し願いたいというお宮役員と夏祭り実行委員会の気持ちが一つになりました。

どうしたら無事にお祭りが行えるか話し合いを重ねた結果、十分な感染予防対策を取ったうえで、本祭りの24日一日のみ、お宮から御仮宮までの渡御を行い、宿場内の練りは行わないという事で一致いたしました。

23日の宵祭りの神事には五宮神社・東山神社の代表者をはじめ、地域振興協議会、(公財)妻籠を愛する会、妻籠観光協会、地区区長、地元議員、実行委員会各位の列席をいただき、高橋宮司のもと厳かに神事を執り行えたことに心から感謝申し上げます。

24日の本祭りには、2年ぶりに神輿に鎮座され、お山を御下りになり、若者に担がれ走り、揺すられた神様はさぞかし満足なされたと思います。新しくこの世に生を受けた子どもの神輿くぐりも7名を数え、健やかに育つよう祈りました。前日まで降っていた激しい雨も本祭りには降ることもなく、無事若者の肩に乗りお宮にお帰りになられました。

氏子の皆様には沢山の奉納を賜りましたこと、深く御礼申し上げます。最後になりましたが、実行委員会の皆様にも心から御礼申し上げます。貴男方の決断がなければ渡御は叶いませんでした。ありがとうございました。私たち役員一同も、地域の鎮守様、和智埜神社をお守りしてまいります。

